

地域日本語シンポジウム 横浜 まちの日本語プラットフォーム2023 外国につながるわたしのチャレンジ

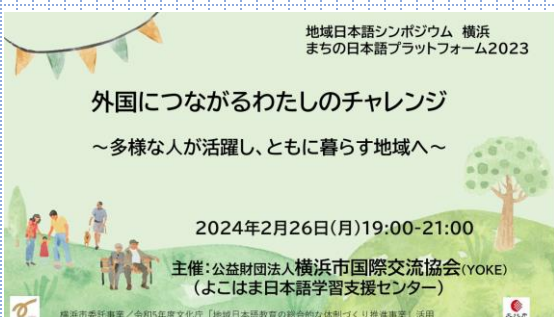
～多様な人が活躍し、ともに暮らす地域へ～

主催：(公財)横浜市国際交流協会 (YOKE)

外国につながる方たちの増加・定住化が進み、学校や職場、生活の場など、日常の暮らしで多文化を背景にした様々なコミュニケーションが行われています。多様な人々が活躍できる地域づくりにむけ、日本人、外国人、活動分野の異なる人たちが行き交い、さらなる行動のきっかけを得られることを目指して、YOKEでは年1回のシンポジウムを開催してきました。

今回は、日本語学習の場でことばを学ぶことをきっかけに、人や団体と出会い地域での活動が広がってきた、外国につながる方たちと、その教室運営に関わるスタッフの方が登壇しました。教室の紹介とともに、学習者から支援者へと役割が変わるなかで、自分や教室に起きた変化などを話していただきました。後半は、多様な人が地域で活躍し、ともに生き生きと暮らすために、大切にしたいことやコミュニケーションのありかたなどを参加者全員で考えました。そしてYOKEが運営する「よこはま日本語学習支援センター」の取組も紹介しました。

このシンポジウムには全国各地から、多くの方にご参加いただきました。参加者のみなさんが、それぞれの地域特性を考えながら、市民が関わる地域日本語教室のもつ意義と可能性、何よりその活動の楽しさ・豊かさに思いをめぐらせ、「多様な人が活躍し、ともに暮らす地域へ」を目指すきっかけとなることができたのでしたら嬉しく思います。



テーマ

外国につながるわたしのチャレンジ
～多様な人が活躍し、ともに暮らす地域へ～

登壇者

<事例報告者> *発表順
モゲ・ダナシリさん / 竹中翔子さん
(NPO法人霧が丘ぷらっとほーむ)
渡部紗碧さん / 野俣恭子さん
(横浜市港南国際交流ラウンジ)
崔英善さん
(國學院大學兼任講師・日本外国人ネットワーク代表)

<コーディネーター>
嶺肩志江さん (横浜国立大学教育学部非常勤講師)

日時
場所

2024年2月26日 (月) 19:00-21:00
オンライン (Zoom)

内容

事例報告
登壇者ディスカッション

参加者数

106人

参加者の声

- 外国につながる方が地域の活動に関わる様子を知ることができて大変よかったです。
- 学習者側から見た日本語教育へのニーズは、とても参考になりました。特に、つまづきやすい箇所や難しい箇所など、自身の経験を基に教える側にまわる、というのは、とても良いサイクルだと思いました。
- 発表を聴いて、外国につながる方々にとって、生活に根ざした、生きた日本語を習得する機会があるということがとても重要なのだと理解できました。



よこはま日本語学習支援センター

Yokohama Nihongo Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営：公益財団法人 横浜市国際交流協会 (YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします！



地域日本語シンポジウム 横浜 まちの日本語プラットフォーム2023 外国につながるわたしのチャレンジ ～多様な人が活躍し、ともに暮らす地域へ～

事例報告

テーマ「日本での私のチャレンジとその思い、地域で出会った仲間たち」

NPO法人霧が丘ぶらっとほーむ

モゲ・ダナシリさん / 竹中翔子(たけなかしょうこ)さん

霧が丘では、インド系インターナショナルスクールの開校以降、インドをはじめ外国の人が多く住むようになり、NPOの方たちが多世代・多文化交流の新拠点を作りました。竹中さんはその活動の一つ「日本語café」の講師です。インド出身のモゲさんは来日7年、サポーターとして、会話の橋渡しや文化紹介をしています。近所にも日本人と話す機会は少ないなか、参加者がクラスで自信をつけ恥ずかしがらずに話しかけるようになれば嬉しいと、モゲさんはいいます。文化紹介では、日本の祭りを知り、インドの祭りも紹介しています。また、日本の生活習慣に合わせながらインドの文化も守りたいと、近所の方の理解を得る工夫をしています。具体例として、パーティーは騒音が出がちなので、開催前と後の2回、近所の人に挨拶にしているとのこと。そして日本語カフェへの参加を通じて、外国の人がカフェの外とも関わり、活躍してほしいというメッセージがありました。

横浜市港南国際交流ラウンジ

渡部紗碧(わたなべさお)さん / 野俣恭子(のまたきょうこ)さん

多文化共生にむけた様々な国際交流活動を行う港南国際交流ラウンジでは、日本語支援については7つの日本語教室の開催などをしていて、野俣さんはボランティアとして長く関わっています。台湾出身の渡部さんは、日本の家族と言葉で理解しあえるようになりたいと、2年前の来日直後から教室に通い始めました。ことばだけでなく、日本の文化や習慣・考え方を学び、生活のことなどを話しあえてよかったとのこと。そして、今度は自分が日本語ボランティアとして、講座を受講し日本語支援を体験するようになった経験も聞きました。日本語力に自信はないが、自分は日本で外国人としての生活経験があるので、日本語学習者をより理解できるのではないかと気づき、自分の役割を感じることができたそうです。仕事での夢も語ってくれました。

崔英善(チェヨンソン)さん

「日本語教室の魅力と可能性」として、20年超の日本滞在での日本語習得経験と、日本語教室への提案を話しました。日本語学校と地域日本語教室、各々での学びから、学校と異なる日本語教室のメリットとして、学習ニーズに合わせられること、実践的なコミュニケーションが行われること、居心地のよさなどがあげられます。また、対象者が生活者であることをふまえ、教室では日本語学習だけでなく「日本語・日本文化教室」の視点や、コミュニケーション能力の習得、(支援者としての)外国人人材の育成などができるとよい等の提案がありました。崔さん自身、日本語ボランティア経験をもち、外国人向け支援者育成講座にも携わってきました。外国の人が支援を行うことは、学習者にとって先輩モデル的な存在がいるなどメリットが大きいこと、一方で、外国の人が自分たちだけで教室をもつことは心配だとも聞き、適切なサポート体制を望んでいます。

「外国につながる方の活躍のために、必要なこと」

コーディネーター嶽肩(たけがた)さんの進行により、参加者からの質問も共有しながら話を深めました。スピーカーや会場から、以下のような経験や意見が出ました。

- ・インターフォンでのやり取りや、日本語で話すスピードが速い時に、日本語ができないと困ると感じる。「わかりません、ゆっくり言ってください」を何度もは言いづらいです…。
- ・習った日本語をすぐに使うために：ラウンジのいろいろな日本語クラスに入った。日本語教室は実家、相談できる場所でもある。外国人の先輩にも会える/スーパーで店員に話しかける。ある時、店員がいなかったため他のお客さんに聞いたら喜んで教えてくれた。日本人も外国人と話したいのだと思いました。(以上、スピーカー)
- ・「横浜市「令和元年度横浜市外国人意識調査」によると、外国人も地域の役に立ちたい人が多い。これからの日本語教室は外国の方々と一緒に作っていくべきだし、教室がより豊かになると思います」(会場)

ディスカッション



よこはま日本語学習支援センター

Yokohama NIHONGO Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営:公益財団法人 横浜市国際交流協会(YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします!

